

上水道の水源である大松川ダム流域の森林保全対策を

赤川 堅一郎

問 大松川ダムは、横手市の上水道の水源として、山内地域の大きな犠牲と努力により、横手川の治水と併せ、30年余の歳月を経て、平成13年に完成した貯水ダムである。

水源地は、ダムへの流入面積3、600haの森林である。この森林を健全な資源として守ることは、水源確保のみならず、地球温暖化の防止にも大きく貢献するものである。

全国を見渡すと、水源確保と保全のため、住民に協力を仰いでいる例が多くある。

横手市でも、例えば水道水1.3m³当たり1円を負担していただくと、年間660万円を水源地の森林保全に充てることができる。

市民が協力するという仕組みづくりの実施の考えは。

答 自治体の森林資源確保・水道水源保全の取り組みでは、1.3m³当たり1円程度の負担をお願いし、その費用に充てている例がある。

秋田県では、平成20年度に、森林を健全に保全に守り育て、次世代に引継ぐことを目的に、秋田県水と緑の森づく

り税を創設した。県民参加により森林環境の保全の費用を賄うというもので、水と緑の森づくり事業として展開されている。

ご提案の件については、これらの事業との連携・調整が必要であり、今後検討する。

問 職員のあり方と、市民対応について伺う。

答 接遇マナー向上のため、各庁舎ごとに接遇マナーアツプ委員の配置・来庁した市民へのアンケート・職員ごとのチェックシートによる確認など、絶えず対応を検証していく取り組みを行っている。

その他の質問

○地球温暖化対策

○株式会社横手殖林社の現状と市の対応

○学校統合



市民に対応する窓口職員

今後の森林行政の進め方は

塩田 勉

問 森林は、国土の保全・水源の涵養など多面的に機能しており、持続的に保全していくことは、極めて重要である。特に、京都議定書では、地球温暖化防止のため、森林を二酸化炭素吸収源として、効果を数値目標化している。

市では、市有林・財産区合わせて5、558haを保有し、横手市森林面積の14・3%を占めている。国県の方針のもと、市の森林行政の進め方は。

また、学校林が16件・約70haある。先人が、いつの日か学校建設に役立たせようとしたもので、将来の子どもたちや教育への熱い思いが伝わる。

今、森林は価値を失いつつある。行政か、あるいは地域か、いずれにしる手入れを行うべきかと思うのがいかがか。

答 市有の人工林は、大半が35〜50年生である。市森林整備計画により除伐・枝打ちを進めてきたが、今後は間伐で木の生長を促進させ、二酸化炭素削減も図る管理になる。

学校林については、今後、学校関係者と協議しながら、維持管理を検討したい。



雄物川町・森林保全作業

問 上内町の都市計画見直しで、建ぺい率・容積率の変更はどうか。前回も質問したが、改めて伺う。

答 平成18年に着手した都市計画マスタープランを、今年3月に策定した。その中で、都市計画区域の変更や市街地土地利用誘導指標の検討を行う。上内町・羽黒町地区については、多世代住宅など、多様な住み方の検討も行う。

また、都市計画区域の見直しと併せ、建ぺい率・容積率の見直しを行い、平成22年には説明会等の手続きを経て、都市計画設定の予定である。

その他の質問

○企業誘致の現状と、これからの取り組みについて